

第11回 市民会館名画劇場

開催日：平成23年（2011年）9月13日（火）・14日（水）

今回は、日本映画を代表する溝口健二監督が、1950年代に世界の映画祭で絶賛を博した時代ものの名作を上映しました。

<上映作品一覧>

『西鶴一代女』1952年／新東宝＝児井プロ／137分

監督：溝口健二 原作：井原西鶴

出演：田中絹代、三船敏郎、進藤英太郎

『雨月物語』1953年／大映／96分

監督：溝口健二 原作：上田秋成

出演：京マチ子、田中絹代、森雅之

『山椒大夫』1954年／大映／124分

監督：溝口健二 原作：森鴎外

出演：田中絹代、香川京子、花柳喜章

『近松物語』1954年／大映／103分

監督：溝口健二 原作：近松門左衛門

出演：長谷川一夫、香川京子、南田洋子

第11回市民会館名画劇場

平成23年 **9月13日(火)・14日(水)** 下関市民会館大ホール

■上映スケジュール

13日(開場10:00) ①10:30~12:06「雨月物語」 ②13:00~15:17「西鶴一代女」 ③15:45~17:49「山椒大夫」 ④18:30~20:13「近松物語」

14日(開場9:30) ①10:00~12:04「山椒大夫」 ②13:00~14:43「近松物語」 ③15:15~17:32「西鶴一代女」 ④18:00~19:36「雨月物語」

■入場料 1日券 **500円** (全席自由、前売・当日同額) ※小学生以上有料

■プレイガイド (入場券発売日 7月9日(土))

下関市民会館、シーモール「ラン」、アブニール(菊川)

■無料託児サービス(予約制)

未就学のお子様を無料でお預かりするサービスを行います。安心して上映会をお楽しみください。ご希望の方は、9月6日(火)までに下関市民会館へご予約ください。

日本映画を代表する溝口健二監督が、1950年代に世界の映画祭で絶賛を博した時代ものの名作を紹介いたします。

西鶴一代女

(1952年 新東宝=児井プロ 白黒 スタンダード 137分)

(原作)井原西鶴 (脚本)依田義賢 (構成・監督)溝口健二

【出演】田中絹代、三船敏郎、宇野重吉 ほか



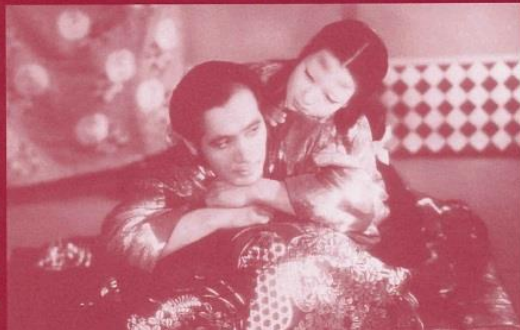
原作は井原西鶴の「好色一代女」である。原作の女主人公は、生来の好色から数奇な男性遍歴を重ね、封建制度の下で自由奔放な性を謳歌する女性として描かれている。映画化にあたって監督の溝口健二と脚本家の依田義賢は、女主人公の自己主張や被害者意識を極力排し、男性本位の都合で不思議な一生をたどってしまう女を、客観的に凝視する手法で描いている作品。

雨月物語

(1953年 大映[京都] 白黒 スタンダード 96分)

(原作)上田秋成 (脚色)川口松太郎 (脚本)依田義賢 (監督)溝口健二

【出演】京マチ子、田中絹代、森雅之 ほか



上田秋成の短篇「浅茅ヶ宿」と「蛇性の淫」を原作に、欲望と幸福、戦争と平和といった、いつの時代にも通じる普遍的な主題を、戦国時代の二組の夫婦を通じて対照的に描いた作品だが、ここにはリアリズムだけでは律しきれない溝口健二監督の美学が明瞭に表れている作品。

山椒大夫

(1954年 大映[京都] 白黒 スタンダード 124分)

(原作)森鷗外 (脚色)八尋不二 (脚色)依田義賢 (監督)溝口健二

【出演】田中絹代、香川京子、花柳喜章 ほか



溝口健二監督が、森鷗外の短篇小説を原作に中世荘園の奴隷制度における悲劇をリアリティに描き、ヴェネチア国際映画祭で「雨月物語」に続く二年連続の受賞に輝いた力作。

近松物語

(1954年 大映[京都] 白黒 スタンダード 103分)

(原作)近松門左衛門 (脚作)川口松太郎 (脚本)依田義賢 (監督)溝口健二

【出演】長谷川一夫、香川京子、南田洋子 ほか



1952年に『西鶴一代女』で世界的注目を浴びた溝口監督は、『雨月物語』と『山椒大夫』によって翌53年、54年と相次いでヴェネチア国際映画祭で銀獅子賞を受賞した。日本の古典文学を題材にして秀作を発表し、独自の様式美をもって世界的名声を獲得した溝口は、今度は近松門左衛門の人形浄瑠璃「大経師普暦」を映画化することになった作品。